

ワールド ウッド トренд

No. 2, 25 MAY 2016

2014 年における韓国の製材業の生産量、輸入量、素材需要量

韓国山林庁は2015年12月、「2014年の木材利用実態調査」の結果を発表した。ここに、この調査に基づき、2014年における韓国の製材品の生産量、輸入量、素材需要などを述べる。

1. 市場規模及び製材業の概況

2014年現在原木を直接的に製材する一般製材所数は540カ所で2013年対比12カ所が増加した。製材所を圏域的にみると、仁川港を中心とする仁川市が83カ所と最も多く、次いで首都圏で位置している京畿道が61カ所、釜山港を中心とする釜山市と慶尚南道が各々32カ所と65カ所などを示した。540カ所の製材所の中で国産原木だけを取り扱っている製材所は117カ所(21.7%)、輸入原木だけを取り扱っている製材所は289カ所(53.5%)、国産原木と輸入原木を同時に取り扱っている製材所は134カ所(24.8%)などを示した。

一方、持続的な建設景気の不況で建築用材の需要は低下しているが、包装材及び建築内装材の需要増加で国内の製材品の生産量は毎年少し増加している。輸入原木の供給は毎年減少していることに対して製材品の輸入は続いて増加している。韓国における製材品の市場規模は2010年322.4万m³が2014年には439万m³と約100万m³以上の増加を示した。

表1 国内製材品の市場規模 (1,000m³)

区分	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年(B)	2014 年(A)	GAP (A)-(B)
製材品生産量	2,024	1,917	2,082	2,343	2,406	63
製材品輸入量	1,200	1,498	1,623	1,756	1,984	228
合計	3,224	3,415	3,705	4,099	4,390	291

一般製材所の 2014 年現在主な生産指標は雇用人数を除いて原木購入量、製品生産量、売上高規模などすべての分野で前年対比増加を示した。生産指標が増加したことに比べて雇用規模が減少した理由は人力採用及び管理が難しい製材所からそれを改善するため施設を自動化したためであろう。

売上高規模は製材品生産量の増加及び製材品の価格上昇に伴って 2010 年以降 4 年ぶりに 1 兆 WON 台を回復した。製材所当たり平均売上高は 19.6 億 WON の規模である。

一方、輸入原木の減少影響と国産原木の供給拡大などの影響で製材所の国産原木の利用率は 2013 年 13.6%が 2014 年には 15.8%まで増加した。

表 2 製材業の生産指標

区分	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年(B)	2014 年(A)	GAP (A) - (B)
製材所数	533	527	481	528	540	12
原木購入量 (m ³)	3, 250, 082	3, 144, 261	3, 298, 324	3, 658, 906	3, 831, 192	172, 286
製品生産量 (m ³)	2, 023, 525	1, 916, 689	2, 081, 929	2, 342, 766	2, 405, 981	63, 215
総売上高規模 (億 WON)	11, 083	8, 671	8, 885	9, 045	10, 600	1, 555
雇用人数 (人)	4, 904	4, 241	4, 760	4, 896	4, 501	-395
国産材利用率 (%)	13. 0	14. 3	14. 8	13. 6	15. 8	2. 2
月平均賃金 (万 WON)	176. 0	180. 2	197. 9	202. 8	206. 6	3. 8
平均売上 (億 WON) /製材所	20. 8	16. 5	18. 5	18. 1	19. 6	1. 5
従業員数 (人) /製材所	9. 2	8	9. 9	9. 6	8. 3	-1. 3
原木購入量 (m ³) /製材所	6, 098	5, 966	6, 857	6, 930	7, 095	165

2. 生産量と販売量

2014 年における製材品の生産量は 240.5 万 m³、販売量は 233.9 万 m³と 2013 年対比生産量と販売量が各々 2.7%ずつ増加した。

表 3 生産量と販売量

区分	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
生産量 (m ³)	2,023,525	1,916,689	2,081,929	2,342,766	2,405,981
販売量 (m ³)	1,985,459	1,895,640	2,106,182	2,336,220	2,399,759

一方、製材品の用途別の生産量をみると、建築仮設材の生産量が 77.2 万 m³ と最も多く、次いで建築構造材が 45.8 万 m³、包装材・輸出ケースが 31.1 万 m³、建築内装材が 30.7 万 m³、パレットが 28.9 万 m³などの順である。仮設材、建築構造材、建築内装材など建築関連製品は続いた建設景気の沈滞に伴って生産量は減少した。一方では地方自治体における登山道造成などの事業が拡大される中でデッキ材や公園施設に対する製材品生産量は増加を示している。

表 4 製材業における製品別の生産量 (m³)

区分	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
その他	97,904	32,042	60,706	77,420	88,102
施設物用	46,724	21,025	40,614	47,853	44,535
農機具用	4,834	653	894	994	644
養殖漁業用	2,167	3,036	2,009	2,223	1,664
軍需品用	-	1,897	791	1,733	380
鉄鋼業用	20,974	5,481	16,225	22,422	21,121
建築内装材	68,727	48,703	210,943	314,208	307,974
デッキ・原木床材用	83,263	45,538	74,659	55,424	69,994
電線ドラム用	81,526	28,051	48,341	58,749	56,994
楽器製造用	5,201	4,336	6,160	6,566	9,657
家具材	54,165	37,495	17,521	28,069	23,045
包装材・輸出ケース	144,887	225,013	234,670	340,608	311,312
パレット	255,251	243,616	269,987	251,273	289,469
仮設材	638,727	520,551	582,366	667,825	722,494
建築構造材	519,176	699,249	516,045	467,398	458,774
合計	2,023,525	1,916,689	2,081,929	2,342,766	2,405,981

3. 原木購入量

(1) 総原木購入量

2014 年における製材所の総原木供給量は 409.6 万 m^3 と前年対比 18.8 万 m^3 (4.8%) 増加した。2014 年における製材所の平均原木購入量は 7,586 m^3 と前年 (7,662 m^3) 対比 76 m^3 (1.0%) の減少を示した。

一方、2014 年原木購入量のうち製材所が直接的に購入した原木量は 383.1 万 m^3 と全体の 93.5% を占めた。他社購入量は 34.1 万 m^3 で他社販売量である 76,557 m^3 を除いた実質的な増加量は 26.5 万 m^3 である。2013 年と比較して直接購入量、他社からの購入した量と他社の販売量はすべて増加した。

2014 年における一般製材所の総原木購入量は 383.1 万 m^3 で、そのうち国産原木が 60.6 万 m^3 (15.8%)、輸入原木が 322.4 万 m^3 (84.2%) などを示した。樹種別に見ると、国産原木は針葉樹の場合はカラマツ (39.7 万 m^3) と最も多く、次いでアカマツ (12.1 万 m^3)、朝鮮五葉松 (33,024 m^3)、スギ (26,943 m^3)、ヒノキ (10,097 m^3) などの順である。広葉樹はナラ類が (3,973 m^3) 最も多かった。輸入原木は針葉樹の場合はラジアータパイン (163.4 万 m^3) とアメリカのベイツガ (112.1 万 m^3) などが最も多く、広葉樹の場合はシンポー (37,158 m^3) とメランチ (22,929 m^3) が多かった。前年対比輸入針葉樹であるラジアータパインの供給量は減少したことに対してベイツガの供給は増加した。一方、輸入広葉樹はマレーシアのメランチは生産量の減少によって広葉樹供給量の減少を示した。

表 5 一般製材業の総原木購入量 (m^3)

区分	原木の購入形態		
	直接購入	他社で購入	他社に販売
2010 年	3,250,082	239,434	6,692
2011 年	3,144,261	456,719	116,743
2012 年	3,298,324	268,580	32,783
2013 年	3,658,906	293,101	44,282
2014 年	3,831,192	341,992	76,557

(2) 国産・輸入原木の購入量

2014 年における国産原木の購入量は 60.6 万 m^3 (15.8%)、輸入原木の購入量は 322.4 万 m^3 (84.2%) である。国産原木は 2013 年 (53.1 万 m^3) 対比 74,521 m^3 (14.0%) 増加し、輸入原木も前年対比 15.1 万 m^3 (4.5%) の増加を示した。特に製材品の輸入量が毎年増加してことに対して輸入原木は横ばいしている。

一方、国内伐採量の増加に伴って製材のための原木購入量は毎年少しずつ増加している。

表 6 一般製材所における国産・輸入原木の購入量

区分	合計 (m ³)	国産原木	輸入原木
2010 年	3,482,824	454,154	3,028,670
2011 年	3,484,237	496,699	2,987,538
2012 年	3,534,121	522,187	3,011,934
2013 年	3,907,725	531,754	3,375,971
2014 年	3,831,192	606,275	3,224,917

(3) 針葉樹・広葉樹原木の購入量

2014 年における製材所の針葉樹と広葉樹の購入量は前年対比各々 1.6%、5.5%の減少を示した。国産・輸入針・広葉樹別にみると国産原木の購入量は前年対比針葉樹は 14.2%、広葉樹は 2.1%増加したことに對して輸入原木の購入量は前年対比針葉樹は 4.4%、広葉樹は 5.8%の減少を示した。

表 7 一般製材所における総原木購入量（針・広葉樹別）

区分	合計 (m ³)		国産原木		輸入原木	
	針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹
2010 年	3,273,309	209,515	431,497	22,657	2,841,812	186,858
2011 年	3,297,703	186,534	490,330	6,369	2,807,373	180,165
2012 年	3,342,951	191,170	500,614	21,573	2,842,337	168,597
2013 年	3,736,917	170,808	523,771	7,983	3,213,146	162,825
2014 年	3,669,700	161,492	598,123	8,152	3,071,577	153,340
前年比 (%)	-1.8	-5.5	14.2	2.1	-4.4	-5.8

4. 原木の投入量

2014 年における製材所への原木投入量は 410.1 万 m³ と前年対比 10.4 万 m³ (2.6%) 増加した。2014 年の原木購入量より投入量が多かったのは 2013 年末の在庫原木を 2014 年製材品生産のために投入したためである。一方、2009 年以降国内景気沈滞で外注材の投入量の比率は 10%未満となった。

表 8 一般製材所における原木投入量 (m³)

区分	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
直接購入した 原木投入量	3,209,921	3,125,256	3,288,573	3,618,992	3,822,311
外注材投入量	257,817	276,219	228,062	377,492	355,482
他社流通量	—	—	—	—	76,557
外注材投入比率	7.4	8.1	6.5	9.4	8.7

(本文は現地レポートを基に編集したもの)